

# 三日ソ利権問題

## 1 対ソ利権政策

47 昭和2年1月18日 在ソ連邦田中大使より  
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連の利権政策に関するヨッフエの発言につ  
いて

付記 昭和二年一月二十九日付在ソ連邦田中大使より

幣原外務大臣宛商公第二八号

ソ連の利権政策について

モスクワ 1月18日後発

本省 1月19日前着

第二〇号

利権政策ニ関シ「ヨッフエ」ハ大要左ノ通新聞紙ヲ通シ発  
表セリ

従来ノ実績カ当初ノ期待程ニ非サルハ事実ナルモ今ヤ西欧  
諸国ハ融通資金欠乏シ生産品ノ輸出ヲ盛ニスルノ必要ニ迫  
ラレ米国ノ如キハ生産品ト資本トノ輸出先ヲ「ソ」連邦ニ求  
ムルノ必要ニ直面シ居レリ故ニ右必要ハ早晚「ソ」連邦ノ

特命全權大使 田中 都吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ソ」連邦ノ利権政策ニ関スル件

当国利権政策ノ變更ニ関シ利権局副総理「ヨッフエ」氏ノ  
発表セル意見ノ大要ニ付テハ曩ニ電報ヲ以テ報告シ置ケル  
カ元來当国ノ利権政策ハ利権法發布當時ノ宣言ニ依リテ明  
カナルカ如ク戦争ト革命トニ依リテ破壊セラレタル国民経  
済ノ恢復改造ノ為メ原料ニ欠乏シ資本ニ余力アル欧州ノ若  
干国殊ニ米国ノ資本及技術ヲ誘致スルヲ正面ノ目的トシテ  
採用セラレタルモノナルモ半面ニハ之ヲ政治的ニモ利用セ  
ムト試ミラレタルモノト認メラル從テ前記意見ハ要スルニ  
許与セララルヘキ利権ノ対象ニ改善ヲ加ヘムトスル点ニ於テ  
ノミ新味アルモノト認メ得可キ処利権政策從來ノ実績カ所  
期ノ如クナラサリシハ該政策ヲ政治的ニ利用セムトセルニ  
在リト為ス者アリ又当国ニ於テ實際利権ヲ獲得セル外國人  
企業ノ成績カ大体ニ於テ思ハシカラサルハ主トシテ(一)  
「マンガン」鉱利権者タル「ハリマン」ハ埋藏量豊富ニシ  
テ有力ナル競争者タルヘキ「ニコポール」鉱山アルヲ知ラス  
シテ利権契約ヲ締結セル為メ企業ヲ脅カサレ又独逸ノ大農

対米国及西欧關係ニ影響有ルヘク此ノ趨勢ニ応スル為ニ利  
権ノ実施ヲ簡易ナラシムル趣旨ノ下ニ既ニ客年利権局ニ常  
設監督委員會ヲ設ケ利権ニ対スル監督ヲ為サシムルト共ニ  
利権者ト「ソ」連邦官憲トノ間ニ於ケル最終決定機關タラ  
シメタルカ更ニ此ノ際從來ノ利権政策ヲ根本的ニ改メテ計  
画的且積極的タラシムル必要ヲ認メ目下全般的利権対償計  
画ナルモノヲ作成中ナルカ右ニ依リ利権ノ対償ハ系統立テ  
ラルルト共ニ事業的意義ヲ有セサル利権ハ今後設定セサル  
ノミナラス現在ノ利権ニ付テモ再審スヘク又利権契約中宣  
伝的意義ヲ有スルカ如キ条項ハ之ヲ避クヘク以テ外國ノ資  
本ト技術トヲ誘致スルノ方針ニ向ツテ進ムコトトナルヘシ  
(付記)

商公第二八号

(2月21日接受)

昭和二年一月二十九日

在ソヴェエト連邦

業利権ニシテ牧畜地タル可キ地ニ農作ヲ約シ居レルモノア

ル等利権ノ対象ニ関スル調査不十分ナリシモノアルコト

(二) 利権者当初ノ予期以上労働法上ノ負担重ク工業利権ニ

付テハ右負担ハ現ニ賃銀ノ約四十「パーセント」ニ達シ居レ

ル実情ニシテ尚之カ増加ハ職業組合ニ於テ行ヒ得可ク同組

合ハ諸般ノ事情ニ依リ次第ニ緊張ヲ加ヘ来リツツアル対政

府政策トモ関連シ益々之ヲ増加セムトスル傾向アルコト

(三) 「ソ」連邦政府ハ「チエルヴォオニエツ」ノ輸出及輸入防

止策ヲ取り利権契約ニ特別ノ規定無キ限り利権者ハ収益中

ヨリスル外國債務ノ支払ニモ利権局及国立銀行ノ仲介ヲ俟

ツ必要アル為メ外國ニ於ケル買入及信用取付ニ支障アルノ

ミナラス殊ニ最近ノ調査ニヨレハ「チエルヴォオニエツ」ノ国

内価値ハ半減シ居レル実情ニシテ国立銀行ノ「チエルヴォ

オニエツ」対外相場維持策ノ為利権者ハ輸入資本ヲ直ニ半減

セラレ居ルト異ナラサルコト

(四) 多クノ利権契約ニ於テハ利権者カ生産品ヲ外國市場価  
格ヲ以テ政府ニ提供ス可キコトヲ規定セル処国内価格カ外  
国価格ヨリモ騰貴セル為メ本来利権者保護ノ右規定ハ却テ  
反対ノ結果トナリ居レルコト等ノ理由ニ因ルモノナリト認

ムル者アリ故ニ「ヨツフエ」氏ノ述ヘタル利権政策ノ運用ニ関スル變更カ利権ノ実績ニ如何ナル結果ヲ齎スヤハ甚タ興味アル事項ト思ハルルニ付同氏ノ意見ヲ掲載セル新聞切抜及其ノ他ノ訳文ヲ茲ニ送付ス

(付 屬)

### 利 權 政 策

一月十五日「エコノミーチエスカヤ・ジズニ」紙

吾人ハ何時ニ於テモ吾人ノ「コンセツション」ノ実行カ吾人ノ利権政策ニ対スル希望ニ達セサルコト遠キコトヲ隠シタルコトハ無キノミナラス反対ニ常ニ率直ニ自認シテ居ル此希望ハト云ヘハ最初「レーニン」カ説明シタ通り極メテ簡單テアツテ吾人ノ利権政策ハ戰爭ト革命トノ為メ破壊サレタル吾人ノ經濟ノ復興歩調ヲ著シク早メ且ツ我國ノ生産力發達ニ対シ力強キ援助トナラネハナラス

今ヤ「ソ」連邦ノ復興時代ヲ吾人ハ全ク完成サレタルモノト称フルヲ得ル時即完全ニ「ソ」連邦ノ工業及農業力戰前程度ニ復興シタル時ニ於テ吾人ハ嚴格ニ言フカ吾人ノ独力ニヨリテ達成シタモノテ吾人ノ經濟復興事業ニ於ケル外国資本ノ力ト利権ノ意義トハ言フニ足ラサルコトヲ確信スル

ノ実行ヲ律スルコトハ絶対ニ不可能テアル

全世界ニ於ケル最近ノ投機熱ハ漸ク終熄シ欧州ノ大多数ノ諸國ハ全ク(但シ米國ノ援助ナシニテハ無ク)戰前程度迄自己ノ經濟ヲ恢復シタカ北米合衆國ハ勿論其ノ危機ヲ脱シタノミナラス巨額ノ遊資ヲ蓄積シ今ヤ金テ窒息セントシテ居ル此ノ窒息ヲ逃カルル為メニハ早く自己ノ資本ヲ外國ニ向ツテ吐キ出スコトテアル「ソ」連邦ニ於テモ亦工業モ農業モ前陳ノ如ク完全ニ戰前程度復興シタノテアル

併シテ此ノ結果吾人ニ取リテ如何ナルテアラウカ言フ迄モナク第一ニ米國トノ關係テアル米國ハ國民カ自己ノ工業生産品モ又其レヲ販売シタ金モ最早大量ノ消化ヲナシ得サル様ナ状態ニ立至ツテ居ル

即貨物ト金トノ輸出ハ米國ニ取リテハ自己ノ生命問題テアル

併シテ自己ノ貨物ノ輸出経路ニ於テ米國ハ西欧州トノ衝突ヲ來タシテ居ル西歐工業諸國ハ互ニ自己商品需要ノ海外市場獲得ノ為メ相争ツテ居ル此ノ如クニ米國ハ西歐ヲ自己商品市場トシテ勘定ニ入レルコト能ハサルハ明白テ反対ニ歐洲ニハ歐洲以外ノ市場ニ於テ自己ノ商品ノ捌ケロヲ求メ

併シテ他ノ半面ヨリ見テ世間一般ニ拮マツテ居ル意見カ外國人利権ハ「ソ」連邦ニ対シテ何等ノ利益ヲモ与ヘテ居ラヌカノ如キハ實際ニ適合シテ居ラス

小數ノ人々ニハ既ニ知ラレテ居ルテアラウカ一九二五—二六經濟年度ニ対シテ単ニ國庫收入ト其ノ計數ノミニツキ論スレハ外國人利権者カ納入スルモノ合計ニテ約五百萬留ニ過キス併シ是レニ税金及諸課金ヲ加算スレハ利権者ニヨリテ國家カ取得スルモノハ該年度ニ於テ約千五百萬留ニ上ル夫レニ猶次ノ事ヲ付言セネハナラヌ即利権者ノ支払金ノ一部ハ外國貨幣ヲ以テセラルルノテ之レ吾人ニトリテ大ニ重要テアルテハナイカ其ノ外「コンセツション」ノ經濟的利益ハ固ヨリ國庫ノ收入ノミヲ以テ計量スルコトハ出来ヌコト勿論テアル我國ノ工業發達ニ対スル助力ト吾カ經濟發展ニ対スル援助トハ假令其レカ金錢ニ見積ムルコトハ出来タニシテモ國庫ノ收入ニ劣ラサル利益テアル

吾人ハ「ソ」連邦ニ於ケル利権發達ノ條件ハ全然特別ノモノタルコトヲ一度ナラス繰リ返シ言明シタ之レニ因ツテ從前ノ吾カ利権ノ実行カ如何ナルモノテアツタカ又ハ現在如何ナルモノテアルカ等ノ理由ニヨリ將來ニ於ケル吾カ利権

ネハナラヌ必要ニ迫ラレテ居ル若シ米國モ歐洲モ海外ニ於テ同一市場テ相争フナラ悲惨ナル競争ヲ惹起スルテアラウ斯様ニシテ米國ハ是非共有ユル産業發達ニ対シ自己商品需要地トシテ「ソ」連邦ヲ確保スルコトノ必要カ問題トナツテ直面シテ居ル

米國ヨリノ資本ノ輸出ハ既ニ巨額ニ達シテ居ル殆ント百億弗ニ垂ントシテ居ルカ此等ハ主トシテ「ラテン」亞米利加「カナダ」及欧州等テアル

歐洲ハ米國資本ノ流入ニヨリテ自己ノ難局ヲ切り抜ケンコトヲ力メツツアリテ夫レニヨリテ辛ウシテ自己ノ發達ヲ期シ得ルノテアル「ラテン」亞米利加及「カナダ」ハ充分ノ外資ヲ吸收ス可キ天産資源ニ富ンテ居ラヌ茲ニ於テ米國資本ノ輸出市場トシテモ亦「ソ」連邦ハ米國ヲ「アツトラクト」セスニハ措カヌ

疑ヒモナク「ソ」連邦トノ相互關係カ如何ナツテ居ルニセヨ米國政府カ凡テ未タ非友誼的態度ナルコトハ米「ソ」間ノ利権相互關係ニ於テモ相反影セサルヲ得ヌ併シテ「ソ」間ノ利加ニ於ケル前記ノ如キ自己ノ事態ノ變遷ハ自然此ノ相互關係ニ影響ヲ及ホスノハ当然テアル歐洲ニ至リテハ從前モ

其ノ通りテアツタカ依然トシテ遊資カ欠乏シテ居ル併シ事  
態ノ変遷ハ自ラ別個ノ関係ヲ生シテ来タ

即濫発ニヨリテ貨幣カ際限ナキ暴落ヲ来シテ居タ時代ニア  
リテハ西欧ニ於テ何人ト雖モ現金ヲ蓄積シタモノハ無イ皆  
他ノ価格変動セサル物資ヲ擱ムコトニ腐心シタ此ノ時代ニ  
於ケル工業ハ自己蓄積ノ全部ヲ挙ケテ工場設備ノ改善ニ費  
消シタノテアル如斯シテ自国貨幣ノ基礎確立ノ時到レルニ  
当リ各国ノ工業ハ融通資金ノ欠乏ヲ来タシ自然自己生産品  
ノ輸出ヲ盛ニスルコトノ必要ニ迫ラレテ居ル米國ニ於テハ  
欧州品ノ為メニ充分ナル市場ハ殆ント閉鎖サレタルカ故ニ  
欧州ニ取リテハ「ソ」連邦ハ実ニ好個ノ市場テアツテ此レ  
ニ対シ眼ヲ向クルニ至ツタカ是亦利権ノ取得ヲ必要トスル  
併シ其ノ資本投下ハ資金ヲ以テスルニ非スシテ物資ノ形ヲ  
以テスルノテアル

上陳ノ如ク世界的事態ノ変化ニ伴ヒ欧州ニ取リテハ物資又  
米國ニ取リテハ物資及資本ノ市場トシテ「ソ」連邦市場ノ  
意義ヲ高ムルコトカ先決問題タラサル可カラサルコト明瞭  
テアル

此ノ趨勢ニ順応スル為メニ「ソ」連邦利権ノ実行カ簡易ニ  
事ハ終了ヲ告ケ計画ハ人民委員會議ニ廻付セラルルノ運ヒ  
トナルテアラウ

其ノ後ニ於テ個々ノ利権対象ニ付キ旧種類ノ集合ニツキ其  
レ其レ外国語ニテ説明書カ発行セラレヘク其ノ後ニ於テ始  
メテ吾カ利権ノ能動的的政策ノ実施カ始メラルルコトヲ明カ  
ニシテ置カネハナラヌ

今日迄右ノ如キ利権対象ノ計画ナカリシ故客年ニ於テモ吾  
人ノ利権実行ハ能動的ナルヲ得サリシ訳ナルカ併シ國際間  
ノ事態変化ヲ来タシ過去数年間ニ於ケルカ如ク余リ大ナラ  
サル利権申出モアツタカ其レト共ニ（凡テ以前ヨリ余程確  
実ナル事業家ヨリ）客年ニ於テハ數個ノ甚タ大ナル且ツ真  
面目ナル申出ヲ受ケタ（主トシテ米國ヨリ）ルカ世界的ニ  
変化シタ事態ハ效ニモ亦反影シテ居ル此等ノ申出ニ対シ予  
備の交渉ハ近ク終結ニ至ルテアラウ

技術的援助ニ対スル頗ル重要ナル數個ノ契約ハ客年ニ於テ  
締結セラレタ併シ乍ラ吾人ハ客年ノ仕事ノ価値ハ利権契約  
ノ如何又ハ現在具体的交渉カ運ハレ居ル処ノ重要ナル利権  
企業其ノ物等ニアラスシテ真ノ価値ハ凡テ吾カ利権ノ実行  
振ヲ根本的ニ破壊シテ其レヲ新軌道ニ据ヘル処ノ前記利権

サルル事ニナツタノテアル

即客年利権局ニ対シテ既ニ実在スル利権ノ監督上ノ責任ヲ  
課スル規定カ設ケラレ利権局ノ内部ニ於テ「常設監督委員  
會」カ設ケラレテコレ迄利権局ニ属セサリシ処ノ機能即  
「ソ」官憲ト利権者トノ間ニ惹起セル爭議ノ最終ノ決定權  
カ利権局ニ対シテ認メラレタ

次ニ前陳ノ如キ國際間及内國的事態ノ變遷ハ遂ニ利権実行  
ノ變更ヲ可能タラシムルニ至リ將來ハ事業的意義ヲ有セス  
シテ喧伝的意義ノ利権ハ最早設ケラレサルコトニナルテア  
ラウ（此ノ意義ヲ以テ実在スル所ノ利権ハ再検査ニ付セラ  
ル可シ）結局現在全般的「利権対象計画」カ作製セラレツ  
ツアル

人民委員會議ノ決定ニヨリテ「ソ」連邦國家計画部ハ最初  
人民委員會議ノ審議ニ付シ更ニ利権局ノ決定ヲ待ツテ「ソ」  
連邦人民委員會議ノ確認ヲ求ム可キ計画ヲ作製スルコトニ  
ナツタ

右計画ハ今ヤ國家計画部ニテ既ニ出来上リ殆ント凡テノ共  
和國人民委員會議ハ各自ノ決定ヲ与ヘ目下此ノ計画ハ利権  
局ノ手ニアリテ採決ヲ待ツテ居ル大概一月末頃ニハ此ノ仕

対象ノ計画作製ニ帰着スルノテアル

此ノ意味ニ於テ客年ハ急転テアツタ即チ吾カ利権政策ニ一  
新紀ヲ画シ新時代ニ入ルノテアル

吾人ノ利権政策及実行ニ関スル此ノ新時代ハ即亦吾人カ能  
働的且ツ計画的（利権対象計画ニ從ヒ）利権政策ヲ將來施  
行スルニ到ルノテアツテ単ニ宣伝的意義ヲ持ツニ過キサル  
カ如キ且ツ小ナル遇然的利権ハ吾人ハ供与セサルテアラウ  
同様ニシテ今日迄ハ是非共単ニ其ノ喧伝的目的ニテ設ケラ  
レタル条件ヲ將來ノ契約書ニハ挿入セラレヌテアラウ其ノ  
代リ吾人ハ金モ技術モ吾人ニ取リ特ニ必要テ且ツ其レニヨ  
リテ「ソ」連邦ヲ裨益シ得ル処ノ吾カ經濟的部門ニ外國資  
本ト外國技術トヲ引付クル様ニスル方針ヲ吾カ利権政策ヲ  
進ムルテアラウ（ア・ヨツフエ）

48 昭和2年2月9日

在アレクサンドロフスク佐々木總領事  
より  
幣原外務大臣宛

對ソ利権業者の連絡機關設置の必要性に關す

る意見具申

本機密第一六号

（3月17日接受）

昭和二年二月九日

在アレクサンドロフスク

総領事 佐々木 静吾(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

利権企業者ノ連絡機関設置方ノ件

北樺太ニ於ケル石油・石炭ノ両企業者ハ事業ノ性質ニ於テ相異ルモノアルノミナラス其ノ成立ノ歴史・資本ノ系統並ニ経営方法等ヲ異ニシ之レヲ合同スルコトハ困難ナルヘキモ此両社カ対外関係ニ於テ各別ニ行動スルコトノ頗ル不利ナルハ客年本官着任後直チニ看取セル所ニシテ右ハ往電第一七〇号(大正十五年)及在「オハ」鈴木分館主任宛往電第一一号(昭和二年)ニテ概要御承知ノコトト考ヘラルモ本件ニ関スル概念ヲ与ヘンカ為メ先ツ当地ニ於テ利権企業ヲ監督監視シツアル官公衙(「オハ」モ殆ント同様ナルヘント思ハル)ヲ左ニ列記スヘシ

一、利権特別委員会 客年八月十七日付本普通第七六号ヲ以テ報告セン同会ハ薩哈噠管区革命委員會議長ヲ以テ議長トシ外務交渉員鈺山監督官鈺山署技師二名ヲ委員トシ利権契約ノ履行ヲ直接監督ス

### 三 日ソ利権問題

(革命委員会外務交渉署鈺務署)スルノミナラス同委員會議長カ管区革命委員會議長(内地ノ地方長官格)ナルヲ以テ人格のニモ他ノ官公衙ヲ統一シ居レルカ如キ傾向ヲ呈スルカ故ニ本邦側企業者カ之レニ對抗スル為メ相互ニ連絡一致スルノ有利ナルハ寧ロ当然ニシテ殆ント説明ノ要ナシ殊ニ一社ニ課セラレタル罰金又ハ課税ノ事例ハ他社ノ戒トナリ各社ノ受クル損害及圧迫ヲ軽減シ得ヘキコト多大ナリ前述ノ如キ事情ノ下ニアルカ故ニ単ニ対外関係ヨリノ見ルトキハ理想トシテハ本邦利権業者(石油・石炭・林業其他将来利権契約ヲ締結スルモノ一切)ヲ合同スルヲ有利ナリト考フルモ實際此ノ理想ノ実現不可能ナラハ少ナクトモ東京ニ各利権業者ヲ包容スル連絡事務所ヲ設クルカ又ハ連絡専務者ヲ置キ対外関係ノ諸問題並ニ之レニ関スル情報ノ交換ヲ行ヒ関係官庁トノ連絡ニ任シ共通ノ利益ヲ擁護増進スル必要アリ而シテ目下現実ニ右連絡ノ必要ヲ感シツアル諸問題ハ大ニシテハ財産帰属問題、付保問題、少ニシテハ税関事務費ノ賦課、所得税ノ納付資格労働者ノ待遇、病院ノ閉鎖等ニテ労働法、団体契約ニ関連スル日常ノ事故ニ至リテハ枚挙ニ暇アラス

二、鈺務署 利権契約並ニ技術方面ヨリ企業ヲ監督ス  
三、財務支署 利権契約中單一税ノ規定アルニ拘ラス常ニ各種ノ課税問題ニテ紛紜ノ種ヲ蒔キツツアリ

四、税関 社員・労働者用ノ物資並ニ企業用機械器具ノ輸入及ヒ生産品輸出ノ為メ税関トノ交渉モ亦繁雜ヲ極ム

五、労働監督官 労働法、団体契約ノ実施及違反ノ検査ニ眼ヲ光ラン労働者ノ日常生活ニ至ル迄世話ヲ焼キ居レリ  
六、鈺山委員会 労働者ノ団体ニシテ企業者側トノ交渉最モ繁瑣ナリ

右ノ外船舶及邦人ノ出入ニ関シテハ港務局「ゲ・ベ・ウ」民警署外務交渉署等トノ交渉アリ此等官公衙ハ夫々各自ノ立場ヨリ勝手気儘ナル要求ヲ各別ニ提起シ若シ甲企業者カ一步ヲ譲ラハ直チニ之レヲ乙企業ニ対スル要求ニ引用シ又ハ要求条項中甲企業ト乙企業トノ間ニ緩急駆引ヲ行ヒ一方ノ油断ニ乗スレハ之レヲ以テ他方ヲ掣肘セントスルカ如キ狡獪ナル方法ヲ講シ之レヲ内地ニ於ケル同種ノ事業経営ニ比スレハ其ノ難易ノ度霄壤ノ懸隔アリテ吾人素人ノ眼ヲ以テセハ事業ノ将来実ニ寒心ニ耐エサルモノアリ加之此等官衙ハ内部ニ於テ特別利権委員会ノ下ニ機械的ニ合同一致

利権業者カ対外諸問題ヲ交渉スル為メ「ハバロフスク」浦潮又ハ莫斯科ニ代表者ヲ派遣スヘントハ在浦潮及哈府總領事館ヨリ意見具申シアレトモ之レヲ利権業者側ニ聞クニ營利会社トシテハ経費嵩ミ容易ニ實現シ難シト言ヘリ蓋シ此ハ偽ラサル告白ナルヘキモ之レ逆モ各社各個ニ代表者ヲ置クカ故ニ多大ノ経費ヲ要スヘシ若シ利権企業者カ連合シテ合同負担ト為サハ各社ノ経費ハ其ノ組合員ノ数ニ応ジテ分割セラレ大ニ軽減シ得ヘク此点ヨリスルモ前記ノ連絡機関ハ当業者ヲ利スルコト多大ナルヘシ  
対蘇連邦通商関係ニ於テハ同国カ国営商業機関ヲ以テ貿易ヲ独占セルニ對抗スル為メ本邦側ニテハ輸出組合ヲ組織シ歩調ヲ整ヘタリト聞ケリ蘇連邦内利権企業者モ石油石炭ノ外森林利権ノ調印モ近々中ニ在リト言ヒ又新聞紙ノ伝フル所ニヨレハ「オコック」砂金鈺ノ利権東京ニ於テ調印セラレタリト言ヒ漸次其数ヲ加ヘツツアルニ当リ蘇連邦側ニ於テ依然今日ノ制度ヲ改メサル限り利権業者間ニ於テモ輸出業者ノ例ニ倣ヒ單一戦線ヲ形成スルノ必要アリ  
外務省及監督官庁ノ側ヨリ見ルモ斯ノ如キ連絡機関ノ成立ハ頗ル便利ナルヘント考ヘラルルニ付右ニ對シ何分ノ御考

量ヲ煩ハシ度シ  
右具申ス

本信写送付先 在露大使、在哈府・浦潮総領事、在オハ分館

49 昭和2年2月12日

在アレクサンドロフスク佐々木総領事  
より  
幣原外務大臣宛(電報)

サハリンにおける利権問題の交渉に関するソ連側の申入れについて

付記 昭和二年二月十七日付在オハ鈴木副領事より幣

原外務大臣宛第一〇号(電報)

オハにおける利権問題の交渉は同地にて行ないたい旨の意見具申

アレクサンドロフスク 2月12日後発  
省 2月14日前着

第六号

十一日外務部交渉員「ウオリフ」氏来訪最近「オハ」ニ於テハ不愉快ナル問題頻発セルカ其ノ都度鈴木領事ハ在同地鉱山監督官ニ交渉シ居ラルル処(一)同人ハ外務部代表ニ非サルカ故ニ交渉ノ衝ニ当ル事ヲ得ス(田中大使発大臣宛公信第三一二号参照)(二)鈴木氏ハ外務大臣ニ直屬スル關係上問

ヲ「オハ」ニ転電シ鈴木主任ヨリ意見ヲ大臣ニ具申セシムルニ付其ノ上ニテ何分ノ儀御電訓アリタシ  
在露大使、哈府、「オハ」へ転電セリ

(付記)

亞港發貴大臣宛電報第一六号ニ関シ

当地ニハ勞農外務代表駐在セサルヲ以テ本官ハ当然当地行政各官庁ト交渉シ先方モ之ニ応シ来リタル処前頭電報ニ依レハ当地鉱務監督官ハ外国領事ト交渉ノ衝ニ当ル權限ナキヲ以テ本官ハ直接亞港外務代表ト又ハ亞港帝國總領事ヲ經由交渉ヲナスヲ要スル趣右ニ関シ当地鉱務監督官ニ質シタル処同官ハ何等「ソヴィエト」政府外務人民委員部ノ全權モ委任モ受ケ居ラサルカ故ニ當領事官トノ交渉及文書ノ往復モ単ニ話合的ノモノニ過キスシテ企業トノ間ニ於ケル諸問題ノ解決ニ関シテハ日本領事官ハ亞港外務代表ト特別緊急ヲ要スル場合ハ当地革命委員会全權ト交渉セラルヘキ旨申越セリ

前述ノ如ク緊急ヲ要スルモノヲ除ク一般ノ交渉案件ハ態々之ヲ亞港ニ移ササルヘカラストセハ交渉上ノ不便鮮ナカラスアルヲ以テ到底事務ノ円滑ヲ期スルコト能ハス而已ナラス

題ハ直ニ東京ニ通告セラレ更ニ莫斯科ニ移サルルカ如キモ同地ニ於テ要領ヲ得ス当地ニ舞戻ル事トナリ居レリ然ルニ自分(「ウ」)ハ薩哈噠全島ニ対スル外務部代表トシテ当地ニ駐在スルノミナラス薩哈噠管区ヲ管轄スル官公衙ノ主腦ハ悉ク当地ニ在リ「オハ」ニ於ケル總テノ問題ハ当地ニテ解決シ得ルカ故ニ直接又ハ在当地總領事ヲ經由シテ自分ニ交渉セラルル方正当ノ筋道ナルノミナラス速ニ問題ヲ解決シ得ヘキニ付此ノ旨鈴木氏ニ伝達セラレ同時ニ目下「オハ」ニ於テ如何ナル事件カ發生シ居ルヤ自分ニ通知アリタキ旨申出テタリ尚「ウ」氏ハ當業者カ交渉案件ヲ処理スルニ当リ外交機關ヲ經由スルト当地ニ於ケル利権會議(昨年八月十七日付當館發公信第七六号参照)ノ審議ニ附スルトハ各自随意ナルモ同會議ハ成ルヘク利権企業ヲ円満ニ進捗セシメンカ為ニ設立シタルモノニシテ自分モ會議ノ一員トシテ加ハリ居ル事故財産帰屬ノ如キ主義上ノ問題ハ別トスルモ其ノ他ノ小問題ハ出来得ル限り當業者ヨリ直接利権會議ニ交渉セシメ地方的ニ解決セラルルコトヲ希望スト附言セリ

右申出ハ我分館制度ニモ影響スルコト考フルニ付本電報

斯克テハ當館設置ノ趣旨ニモ反スルモノト信ス就テハ当地ニ於テ發生シタル問題ニ関シテハ当地限りニ於テ直接協商之カ円満即決ヲ図ルタメ此際露國側ヲシテ速ニ交渉上ノ權限ヲ有スル機關ヲ当地ニ設置セシムル様露國當局ニ交渉方相煩シタシ  
在露大使、ハバロフスク、亞港へ転電セリ

50 昭和2年2月19日

幣原外務大臣より  
在アレクサンドロフスク佐々木総領事  
宛(電報)

利権問題に関するソ連側との交渉方法について

て

第九号  
貴電第一六号ニ関シ

利権事業ニ関スル技術的問題ニ付テハ可成當業者ニ於テ直接關係官庁ト交渉シ解決ヲ計ルコトト致度処事態已ムヲ得ス貴官ニ於テ交渉ノ衝ニ当ルヲ要スル場合ニ於テハ貴地外務部代表「ウオリフ」申出(一)ノ次第モアリ事情ノ許ス限り適當ノ経路ヲ經テ在亞港特別利権委員会ニ対シ一応交渉ヲ試ミラルル様致度何ツレニスルモ事件ノ緩急ニ応シ亞港總

領事館「オハ」分館ノ間ニ協調ヲ保チ処理スル様致度シ  
本大臣ノ訓令トシテ「オハ」へ転電シ参考迄莫斯科及哈府  
へ転電アリタシ

51 昭和2年3月24日 在ハバロフスク川角総領事代理より  
幣原外務大臣宛(電報)

極東地方共産党大会における北樺太利権企業

との団体契約に関する論評

付記 昭和二年八月十五日欧米局第一課調査

極東露領に於ける我各種利権の団体契約に関する調査

ハバロフスク 3月24日後発  
本 省 3月25日前着

第四二号

往電第三九号ニ関シ

亜港共産党支部書記「セードフ」ハ北樺太共産党代表トシ  
テ第八回極東地方共産党大会ニ出席セリ同人ハ二十日極東  
地方職業組合長「イズマイロフ」ノ極東露職業組合事業成  
績報告演説ニ対シ北樺太利権企業ニ於ケル団体契約ニ関シ  
論評ヲ試ミ職業組合ノ注意ヲ喚起セリ其ノ内重要事項左ノ  
通

雇傭ノ条件ヲ定メ且ツ将来ノ個人的労働雇傭契約ノ内容ヲ  
決定スルモノナリ(ソヴィエト連邦労働法第十五条)然シ  
テ団体契約ノ中心ハ最低賃銀ニ関スル規定ニシテ団体契約  
ノ締結又ハ改訂商議ト云フモ要之最低賃銀ノ決定商議ニ外  
ナラサルコト左記実例ノ示ス通ナリ

(一)北樺太石油利権団体契約改訂商議ノ現状

北樺太石油株式会社ハ昨年九月哈府ニ於テソヴィエト連  
邦職業組合中央会(在莫斯科)内ソヴィエト連邦鉱山労  
働者職業組合中央委員会(代表者)ト初メテ団体契約ヲ  
締結シ最低賃銀二十九留ト極リタルカ右契約ノ有効期間  
ハ昨年九月一日ヨリ本年七月一日迄ナル為メ石油会社ハ  
本年六月二十九日ヨリ哈府ニ於テ前記ソヴィエト連邦  
山労働者職業組合中央委員会(代表者)ト団体契約改訂  
ノ為メ商議ヲ開始セリ然ルニ会合ヲ重ヌルコト四回ニシ  
テ最低賃銀物価保証ニ関スル条項ヲ除キ全部ノ逐条審議  
ヲ七月四日迄ニ一先ツ終了シタルモ肝腎ノ前記二問題ニ  
付彼我ノ折合附カスシテ商議停頓中ナリ  
最低賃銀ニ付テハ先方ハ(一)本年ハオハノ物価ニ割高トナ  
リタルコト(二)オハノ労働官庁ノ最低賃銀ハ三十四留ナルコ

(一)北樺太石油利権団体契約中ニハ労働賃銀及ヒ文化事  
業其ノ他ニ関シ取極メ無シ

(二)北樺太ノ最低賃金ハ月二十四留ト規定シアルモ国家  
計画部ノ決定シタル生活費指数ハ月三十二留八十哥  
ナルコトハ考慮ヲ要ス

尚右ニ関シ当地職業組合本部ニ於テハ昨週締結ノ石油  
団体契約ハ極メテ不完全ニシテ労働者ニ取リ不利ノ点鮮カ  
ラサルニ付本年ハ之ヲ有利ニ改訂スルヲ要ス云々トノ声高  
シ  
在露大使、浦塩、亜港、オハニ転電セリ

(付記)

極東露領ニ於ケル我各種利権ノ団体契約ニ関  
スル件

(昭和二年八月十五日欧米一課調)

(一)北樺太石油利権団体契約改訂商議ノ現状

(二)北樺太石油利権団体契約改訂商議ノ現状

(三)沿海州森林利権団体契約締結商議ノ現状

団体契約ハ一方被雇用者ヲ代表スル職業組合ト他方雇傭主  
トノ間ニ締結セラルル契約ニシテ個々ノ企業ノ為メ労働及

ト(三)本年各鉱山企業ハ最低賃銀ノ一割増ヲ行ヒタルコト  
(四)オハハ辺鄙ナレハ労働者ハ单身オハへ出掛ケ家族ヲ別  
居セシメスクシテ二重生活ヲナス關係上現在ノ賃銀ニシ  
テハ生活困難ナルコト等ヲ理由トシテ初メ三十五留ニ引  
上ケテ主張シタルカ我方ハ(一)現在ノ最低賃銀二十九留ハ  
極東ニ於ケル各企業ニ其例ヲ見サル高率ノモノナルコト  
(二)オハ物価ハ浦塩、亜港ニ比シ低廉ナルコト(三)オハニ於  
ケル諸施設ハ着々改善セラレ昨年ト本年トノ間ニ生活費  
ノ増加ヲ見サルコトヲ理由トシテ現状維持即二十九留ヲ  
主張シタリ於此先方ハ三十四留三十三留五十次テ三十三  
留ニ譲歩シ我方ハ三十留次テ三十留五十哥ニ譲歩シ彼我  
対峙中ナリ

物価保証ニ付テハ先方ハ現業地ニ於ケル諸物品ノ売値ハ  
買入値段ニ海上運賃ノミ(陸上運賃ヲ除ク意)ヲ加ヘタ  
ルモノタルヘシト主張シタルカ我方ハ物品ノ陸揚港例ヘ  
ハ亜港ヨリオハ又ハ其他ノ現業地迄ノ陸上運賃ヲ売値ニ  
含マシメサラシメトスル先方ノ提案ハ利権者ニ物品ノ  
実価販売ヲ認メタル利権契約ノ趣旨ニ悖ルモノナリトシ  
之ニ反対シ唯各現業地ニ於ケル物価ハ成ル可ク亜港ノ夫

レヨリモ高カラサル様努ムヘント応酬セル次第ナリ  
 因ニ北樺太石油会社ノ意見ニ依レハ団体契約改訂ノ核心  
 タル賃銀問題カ今後共毎年ノ改訂ニ際シ悶着ヲ繰返スニ  
 於テハ臆テ利権事業ノ発達ヲ阻害スルノ結果トナルヘク  
 何トカ対策考究中ナリト

(二)北樺太石炭利権団体契約改訂商議ノ現状

北樺太鉱業株式会社ハ昨年九月哈府ニ於テソヴィエト連  
 邦職業組合中央会(在莫斯科)内ソヴィエト連邦鉱山勞  
 働者職業組合中央委員会(代表者)ト初メテ団体契約ヲ  
 締結シ最低賃銀十九留五十ト極リタルカ右契約ノ有効期  
 間ハ昨年九月ヨリ本年七月迄ナル為メ鉱業会社ハ本年六  
 月三十日ヨリ哈府ニ於テ前記ソヴィエト連邦鉱山労働者  
 職業組合中央委員会(代表者)ト団体契約改訂ノ為メ商  
 議ヲ開始セリ然ルニ会合ヲ重ヌルコト数回ニシテ最低  
 賃銀物価保証及其他一、二ノ問題ヲ残シ七月三、四日迄  
 ニ全部ノ逐条審議ヲ終了シタルモ肝腎ノ諸問題殊ニ最低  
 賃銀問題ニ付彼我ノ折合付カス目下商議停頓中ナリ  
 最低賃銀ニ付テハ初メ先方ハ物価騰貴等ヲ理由トシテ二  
 十二留五十二引上ケヲ要求シタルカ我方ハ石炭利権企業

価格カ浦潮ノ公定価格ヨリ高カラサルコトヲ保証シ居ル  
 処(団体契約第二十七条)今般先方ニ於テハ保証物資ノ  
 範囲ヲ拡張セムトシ彼我ノ間ニ一問題トナリツツアリ  
 因ニ七月下旬主トシテ最低賃銀問題ノ為メ商議頓挫シ鉱  
 業会社代表哈府ヲ引揚ケ浦潮ニ向フヤ先方代表者ハ直接  
 鉱業本社ヘ其意向ヲ電照シ越セルニ依リ鉱業本社ハ直チ  
 ニ其ノ意向ヲ回電シタリ右回電中ニ左ノ一節アリ  
 最近精査ノ結果判明シタル土蔵埋藏炭量ノ意想外ナル僅  
 少及昨年団体契約ノ結果ニ依ル賃銀ノ異外ナル昂騰ハ当  
 企業ノ将来ニ対シ致命傷ヲ與ヘ経営ノ前途ハ真ニ絶望的  
 ナリ此上ノ標準賃銀値上ハ自ラ墓穴ヲ掘ルニ等シ云々

(三)沿海州森林利権団体契約締結商議ノ現状

露領林業組合ハソヴィエト連邦政府ト本年二月莫斯科ニ  
 於テ森林利権契約ヲ締結シタリ本利権ノ対象タル林区ハ  
 沿海州ソヴィエト湾ノ南北ニ位ス  
 露領林業組合ハ本年六月二十五日ヨリ哈府ニ於テソヴィ  
 エト連邦職業組合中央会(在莫斯科)内ソヴィエト連邦  
 農林労働者職業組合中央委員会(代表者)ト新ニ団体契  
 約ヲ締結スル為メ商議ヲ開始セリ然ルニ主要問題タル最

ノ経営難等ヲ理由トシテ現状維持即十九留五十ヲ主張シ  
 タリ於此先方ハ二十一留五十次テ二十留五十二讓歩シタ  
 ルカ我方ハ第四級(昨年ノ団体契約ニ於テ賃銀等級第一  
 級乃至第三級ハ第四級ニ繰上ケタルヲ以テ事実上第四級  
 一ヶ月三十五留十カ最低トナリ居レリ)ヲ第五級一ヶ月  
 四十二留ニ繰上ケ労働者ノ湯治療養費(賃銀ノ一パーセ  
 ントナルカ我方ハ社会保険料ノ外ニ如此支出ヲ要求セラ  
 ルハ不当ナリトシテ反対セルモノ)及文化事業費(賃  
 銀ノ一・五パーセントナルカ我方ハ一パーセントニ  
 低下方ヲ要求シツツアリタリ)ハ従来通り支払フコトト  
 シ其代リ第一級ノ標準的最低賃銀十九留五十八据置トス  
 ヘキヲ主張セリ即彼我主張ノ相違ノ要点ハ第一級標準額  
 ノ引上ニ基ク各等級全般ニ亘ル賃銀ノ引揚ヲ要求スルモ  
 ノナルニ対シ我方ハ第一級標準額ハ其儘トシ今日事実上  
 ノ最低タル第四級ヲ第五級ニ繰上ルコトニ依リ下級労働  
 者一部ノ賃銀引上ケヲ認容セムトスルニ在リ最近先方ヨ  
 リ第一級標準額ヲ二十留トシ第一級乃至第六級ニ対スル  
 係数ニ変更ヲ加フル最後案ナルモノヲ提出シ来レリ  
 物価保証ニ付テハ我方ハ現業地ニ於テ供給スル諸物資ノ

低賃銀ニ付初メ先方ハ三十留ヲ我方ハ二十二留ヲ何レモ  
 主張シ次テ先方ハ二十八留四十哥(鈴木出資ノゴロデツ  
 キー名義ムラシキ林区ノ最低賃銀)ニ讓歩シ我方ハ二十  
 四留(極東森林トラスト所謂ダリレースノ最低賃銀)ニ  
 讓歩シタルモ折合付カス最近露領林業組合代表者ハ哈府  
 ヲ引揚本邦ヘ帰還セリ

露領林業組合鈴木氏ハ十五日大要左ノ通語レリ

先方ノ案通最低賃銀二十八留四十哥トセハ材木百石(五  
 百円相場)ニ付四、五十円ノ損トナル計算ナリ斯クテ毎  
 年少シツツ引上ケラレテハタマツタモノニアラス從テ最  
 初カ大事ナレハ我方トシテハ強腰ニ出テ気長ニ先方ノ合  
 理化ヲ俟ツ必要アリ何レニセヨ利権契約ハ出来テモ肝腎  
 ノ団体契約(最低賃銀)ニ依リ事実上利権契約ノ効果ヲ  
 消滅セシムルコトモソヴィエト側トシテハ出来ル訳ニテ  
 困タモノナリ唯森林利権ノ方ハ石油石炭ノ夫レト異ナ  
 リ未タ事業ニ着手シ居ラス労働者モ使ヒ居ラサレハ癒々  
 団体契約商議決裂トナルモ労働者ノストライキヲ受クル  
 心配ハ無ク寧ロ好都合ナリ云々

二、労働団体契約

大正十五年九月四日哈府ニ於テ北樺太石油会社ソヴェエト連邦鉱山労働者職業組合中央委員会トノ間ニ締結セラレタル労働団体契約ハ昭和二年七月一日ヲ以テ有効期間満了ナルニ依リ石油会社ハ昭和二年六月二十九日ヨリ哈府ニ於テ前記職業組合ト団体契約改訂ノ為メ商議ヲ開始シタルカ依然難関ハ最低賃銀問題ニ在リタルカ同年十月十日ニ至リ最低賃銀二十留(旧最低賃銀十九留五十哥)ニ確定シ十月十三日団体契約ノ正式調印ヲ為セリ新団体契約ノ有効期間ハ昭和二年十月一日ヨリ昭和三年九月一日迄満十一ヶ月間ナリ

52 昭和2年3月25日

在アレクサンドロフスク佐々木総領事より  
幣原外務大臣宛

利権企業供給物資価格のルーブルへの換算に

ついて

本機密第四四号

昭和二年三月二十五日

在アレクサンドロフスク

総領事 佐々木 静吾

ニ逢着シ一会社ノ不利ナル申告ハ蘇官憲側ヨリ他ノ会社ニ対シテ先例トシテ引用セラレ思ヒ設ケサル羽目ニ陥ルコトアルヘシ殊ニ蘇連邦政府財政当局者ハ同国ノ通貨政策上露貨ノ「ヴァリユータ」ニ関シテハ神経最モ鋭敏ニシテ其ノ主義主張ヲ徹底的ニ貫カントシ現ニ客臘莫斯科ニ於テハ森林利権契約ノ調印ハ之レカ為メニ行惱ミタルヤニ聞及ヒ其ノ影響スル所頗ル大ナリト考ヘラルルニ付当地方利権関係官憲カ未タ本問題ニ気付カサルニ際シ石油石炭両会社ハ日蘇間唯一ノ金融業者タル鮮銀トモ協議シ本問題ヲ適當ニ処理シ置キ企業側ノ利益ヲ擁護スル必要アリト思考ス右御報告旁々心付キタル点具申スルニ付夫々会社側へ御伝達ノ上其ノ考量ヲ求メラルル様致度シ

53 昭和2年5月19日

在ハバロフスク川角総領事代理より  
田中外務大臣宛(電報)

北樺太利権企業の労働者雇入れ関係記事につ

いて

ハバロフスク 5月19日後発

本 省 5月20日前着

第七八号

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿  
利権企業カ供給スル物資価格ノ露貨換算ニ関スル件

在「オハ」鈴木分館主任ヨリ大臣宛本年二月十八日付普第一号「オハ」一般事情ト題スル報告中商業ノ部ニ記載シアリタル露貨相場ニ依レハ北樺太石油会社ニ於テハ邦貨壹円ハ客年九月迄ハ七十七哥十月以降ハ九十四哥、三四ノ割合ヲ以テ同地労働者ニ物資ヲ販売シ居ルモノノ如ク右ハ当地「ゴスバンク」ノ邦貨相場ト略一致シ居レルモ浦潮市場ニ於ケル露貨ノ売買相場トハ多大ノ相違アルニ付試ニ当地北樺太鉱業株式会社出張所ニ付キ同社ノ取扱ヘル物資供給ノ換算相場ヲ聞クニ壹円壹留ノ割ニテ極メテ大「ザッパ」ニ計算シ両社共ニ實際市場ノ取引相場トノ間ニ大ナル開キアリテ貨幣換算相場ニ無頓着ナルノミナラス此ノ点ニ関シ両社ノ建値ニ一貫セル主義ナキカ如シ然ルニ利権企業カ社員並ニ労働者ニ供給スル物資ノ値段ハ利権契約ニ依リ北樺太鉱務署長官ノ認可ヲ經ヘキモノニシテ該認可ヲ得ルタメニハ原価手数料諸掛リヲ明細ニ報告スル必要アルカ故ニ日本ヨリ貨物ヲ輸入スル場合ニハ常ニ日露両貨幣ノ換算問題

往電第七一号往電第七六号ニ関シ

(編註)

当地極執機関紙ハ先頃以来北樺太利権企業地行労働者ノ募集ヲ伝ヘ居タルカ十九日同紙ノ報道スル処左ノ通  
北樺太利権企業ノ労働者雇入れヲ聞キ労働者ノ団体ハ知多、武市、「アルダン」其他西伯利亚地方ヨリ哈府ニ参集セルカ是等ハ非熟練労働者ナル為採用セラレス何レモ生計上困難セリ石炭側ハ既ニ必要ノ労働者ヲ雇入れ目下石油側ハ熟練労働者ヲ求メツアルモ主トシテ浦潮労働紹介所一部分ハ哈府労働紹介所ヲ經テ雇入ルル趣ナリ云々  
編 注 「極東地方執行委員会」の略称。

54 昭和2年7月25日

在アレクサンドロフスク佐々木総領事より  
田中外務大臣宛

対ソ利権事務調整のための機関設置に関する

意見具申

本機密第一二六号

(8月5日接受)

昭和二年七月二十五日

在アレクサンドロフスク



総領事 佐々木 静吾（印）  
外務大臣男爵 田中 義一殿  
利権関係事務統一方ノ件

晩近北樺太ニ於ケル石油、石炭ニ関スル利権諸問題ハ関係当業者ノ連絡統一稍々其緒ニ就キ漸次対「ソ」官憲共同戦線ノ醸成ヲ促進シツツアルハ頗ル喜フヘキ顕象ナリト考ヘラルル処本邦人对蘇連邦ノ利権事業ハ其後前記ノ石油石炭ニ止マラス沿海州ニ於ケル森林事業「オホツク」ニ於ケル砂金採掘ノ如ク当館ノ管轄地域以外ニ在ルモノ逐次其数ヲ増加スル傾向アリテ最早当館一館而已ニテハ我利権業者間ニ介シテ相互ノ連絡ヲ計ルコト能ハサルニ至レリ特ニ「ソ」連邦政府ハ極東露領ニ於ケル日本ノ投資ヲ歓迎スル底意アルコトハ在東京通商代表部ニ在外利権委員会ヲ設ケ極東政府内ニハ例外トシテ蘇連邦内唯一ノ州利権委員会ヲ特設シ居レルニ徴スルモ明カニシテ将来利権事業ノ發展ニ依リ日蘇間ノ経済関係ヲ益々親近セントスル傾向ヲ呈スルモノト断定スルヲ得ヘシ而シテ日蘇兩國ノ経済的親近ハ兩國ノ共存共栄ニ資スル所大ナルハ勿論我國ハ平時工業原料ヲ西比利亞ノ広野ニ仰キ延イテハ移民食糧問題ノ解決ニモ

重大ナル関係ヲ有スルニ至ルヘク又一朝有事ノ日ニハ糧食補給ノ途ヲ保障スルコトヲ得確ニ帝國々策ノ一タルヘキモノト思考ス

斯ク觀察シ来ル時ハ蘇連邦内ニ於ケル邦人ノ利権事業ノ將來ハ帝國ノ外交及經濟上主要ノ地位ヲ占ムヘキ素質ヲ有シ利権当業者間ノ連絡統一ハ同事業ヲ有利ニ導ク必要ノ手段ナルニ拘ハラズ最近内地ヨリ得タル情報ニ依レハ管利会社ハ各自ノ立場上種々ノ障碍アリテ本年二月九日付本機密第一六号ヲ以テ上申シ置キタル利権企業連絡機関ノ設置困難ナル由ナリ然レ共監督官庁並ニ利権企業者間ノ連絡統一ハ前記拙信中ニ縷述セル如ク一日モ之レヲ等閑ニ付スヘカラス就テハ民間側ニ於テ連絡機関ノ設置不可能ナリトセハ本官ハ政府即チ監督官庁ニ於テ「ソ」連邦内利権事業ノ円満ナル發達ヲ期スル主旨ノ下ニ之レト同一使命ヲ有スル機関ヲ設置セラレンコトヲ切望ス而シテ監督官庁トシテ新設スヘキ連絡機関ノ任務ハ民間側ノ夫レト自カラ異ナルヘキハ当然ニシテ本官ヲシテ茲ニ其任務ヲ列挙セシムレハ先ツ左記ノ如キモノトナルヘシ

一、現存利権事業監督指導ノ統一

右ニ對シ何分ノ御考量ヲ加ヘラレタシ  
右申進ス  
本信ヲ發送先 在哈府、浦潮斯德總領事、在オハ分館主任

昭和5年5月31日  
在アレクサンドロフスク佐々木總領事  
幣原外務大臣宛  
我が国企業に対するソ連政府の利権政策について  
の風説  
本機密第一〇三号  
昭和五年五月三十一日  
在亞港

總領事 佐々木 静吾（印）  
幣原 喜重郎殿  
「ソヴェエト」連邦政府ノ我利権企業ニ對スル方針ト稱スル風説ニ関スル件

嘗テ日本軍駐屯時代ニ鉱山技手トシテ当地ニ居住シ後大陸ニ赴キ莫斯科ニテ大学ヲ卒業シ最高經濟會議又ハ中央利権委員会ニ出入シ今般「アソ」（薩哈噠株式会社）ノ鉱山技師トシテ再ヒ来亞シタル「ボゴスラーヴスキー」氏カ旧知

二、關係官衙事業家蘇連邦官衙トノ連絡交渉  
三、将来「ソ」連邦内ニ於ケル利権企業ハ各種ノ事業ニ亘リテ發展スルモノト假定シ之レカ対策トシテ予メ「ソ」連邦内資源（利権ノ目的タリ得ヘキ）ノ調査情報ノ蒐集並ニ之レヲ公表シテ利権業者ノ為メ「ヒント」ヲ与フルコト  
四、第三項ノ調査事業ヲ遂行スル為メ在「ソ」連邦在外公館ノ協力活動ニ俟チ右ニ関スル計畫立案  
五、新ニ開始セラルヘキ利権交渉ニ関スル指導及援助  
而シテ該機關設置ノ為メニハ特ニ官制ノ改廢ヲ行フナト大袈裟ナル施設ヲ為スコトナク最初ハ先ツ現ニ利権問題ヲ管轄スル欧米局第一課内ニ利権専門ノ係員ヲ置キ漸次其ノ事務ノ増加スルニ從ヒ必要ノ増員擴張ヲ為スヲ以テ足レリトス蓋シ此案ハ比較的實現シ易ク且ツ各地ニ散在スル利権事業ノ監督統一ヲ行フニ當リ実効ヲ挙げ得ヘシト考フルカ故ナリ

以上四囲ノ状勢ヨリ将来極東方面ニ於ケル利権關係ノ諸問題ハ益々複雑スヘシト想像セラルルト利権業者連絡ノ必要ヲ感スルコト切ナル余リ茲ニ為御参考卑見ヲ開陳セルニ付

人タル坂井組合通訳「ルイセンコ」ニ内話シタル所ニ依レハ「ソヴィエト」政府ノ我利権ニ対スル方針ハ極メテ強硬ニシテ一步モ譲歩セサルハ勿論場合ニ依リテハ圧迫的態度ニ出ルヤモ知レス之レカガメ本春石炭石油企業ノ代表者莫斯科ニ至リ種々折衝スル所アリタルモ何一ツ交渉ノ纏リタルモノナク空シク彼等ハ引キ返スノ已ムナキニ至レルナリト謂ヘリト云フ

右「ボ」氏ノ談話カ如何ナル程度迄「ソヴィエト」政府ノ真相ヲ伝ヘ居ルヤ不明ナルモ内地ノ新聞雜誌紙上ニ散見スル露国通信記事並評論ノ内容ヲ裏書スルモノニシテ全然否認モ為シ難ク本官ハ寧ロ之レヲ或ル程度迄肯定セントスルモノナリ予而本官カ主唱セル如ク我利権事業ノ盛衰ハ対外的ニハ「ソヴィエト」連邦国力ノ消長ト反比例スルモノニシテ昨年「ソヴィエト」連邦政府ハ勸察加「サハリン」事務委員会ヲ組織シテ太平洋ノ施設経営ニ全力ヲ傾注スル態度ヲ示シ同年十月勸察加「アコ」(勸察加株式会社)ニ倣ヒテ「サハリン」ニ「アソ」(薩哈噠株式会社)ヲ組織シテ以来当地ノ形勢ハ一変シ本春解氷期前後ヨリ寄セ来ル労働者ノ波ハ市ノ内外ニ氾濫シ上下ヲ挙ケテ五箇年計画ノ

セシメ得ハ格別否ラサル限リ麻酔又ハ興奮ヨリ醒ムルト共ニ一時ニ疲労ヲ感シ慘憺タル衰弱症状ヲ呈スヘキハ必然到来スヘキ現象ナリト想像セラル

北樺太ニ於ケル我利権事業ノ如キハ刻下一時発作的ニ多少ノ圧迫ヲ加ヘラルルカ如キコトアルトモ(目下現地ニ於テハ未タ其徴候ナシ)大局ニ眼ヲ注キ能ク之レト闘争シ隱忍自重セハ必スヤ近キ将来ニ雄飛シ得ヘキ時機廻シ来ルヘシト信ス悲観論者曰ク「ソヴィエト」連邦ニ於ケル利権事業ハ欧米先進国悉ク失敗シ日本ノ如キハ成績良好ナル方ナリ煩鎖ナル露国法令ノ許ニ到底事業ノ経営ヲ継続シ難キコト明カナルカ故ニ寧ロ損失ヲ少クスル為速ニ利権ヲ放棄スルニ如カスト此説ハ利権事業ノ現場ニ於ケル空気ト「ソヴィエト」連邦国内ノ情勢ニ捉ハレテ過去ノ歴史帝国ノ立場及将来ノ予想抜キノ議論ニシテ石油利権ノ如キ我国策上到底放棄スヘカラサルハ勿論石炭利権ト雖日本人側ヨリ見ルトキハ現制度ノ下ニ於テハ利権法ニ依ル外日「ソ」間ノ経済關係ヲ進展セシムル方法ナキ点ニ鑑ミナハ利権ハ邦人露国進出ノ足場トシテ欧米人ノ利権カ如何ナル状況ニ在ルトモ我利権ハ決シテ此等欧米人ニ倣ヒ輕々ニ処理スヘカラサル

遂行ニ熱狂シ其鼻意気荒キコト到底近寄ルヘクモアラス斯カル際ニ日本人ノ利権事業カ自国領域内ニ蟠居スルコト歴史ヲ知ラサル新来ノ露人ニ取リテハ眼障リニ相違ナク彼等ハ出来得ヘクンハ之レヲ圧迫シ倒壊セントスルハ自然ノ状勢ニシテ前記ノ如キ風説ノ出ツルハ決シテ無理ナラヌコトト考ヘラル

然レトモ他方浦潮斯德ニ於ケル露貨相場ハ年々低下シ現在ニテハ幣制改革後ノ「チエルウォーネツ」ハ欧州戦争当初帝政時代ノ露貨相場ト大差ナキニ至レリ而シテ国民ハ衣食供給ノ不足ヲ訴ヘ殆ント飢餓ノ状態ニ在リ革命後十三年打続ク疲弊困憊ニ最早奮起スル体力モ氣力モナシ如何ニ当局カ旗鼓ヲ鳴ラシテ「ヘビー」ヲ掛クルモ空腹ナル国民カ果シテ所期ノ成績ヲ挙げ得ルヤ疑ナキ能ハス本官ハ少ナクトモ極東ニ於テハ彼等カ力尽キ矢折レ各種ノ事業取捨スヘカラサルニ至リ我資本ノ下ニ降伏シ来ルヘキハ遠キ将来ニアラサルヘシト信ス

五年計画熱ハ中央ニ在テ采配ヲ揮ルモノノ為ニ魅セラレ又ハ余義ナクセラレテ最後ノ精力ヲ集注奮起セルモノニシテ此最後ノ努力ニ依リ若シ幸ニ国力ヲ恢復シ露貨相場ヲ復旧

モノト思考ス殊ニ「ソヴィエト」連邦政府ニシテ若シ利権法ノ運用ヲ誤ラハ将来外資ヲ輸入スルニ当リ自縄自縛自滅スル外ナキ内外ノ形勢ニ在ルコトニ留意シ「ソヴィエト」連邦当局ノ恫喝威圧空景氣ニ屈服スヘキモノニアラスト信ス

「ソヴィエト」連邦利権事業ノ圧迫ニ関スル方針トヤラノ途説ヲ耳ニセルニ付為御参考併セテ卑見御報告申進ス本信写送付先 在蘇連邦田中大使、在ハバロフスタ山口総領事、在オハ下村分館主任

昭和5年7月30日 在オハ下村(未郎)分館主任より  
幣原外務大臣宛

我が国利権企業に対するソ連官憲の対応振り  
について

本機密第九八号 (8月18日接受)

昭和五年七月三十日

在オハ分館主任

外務書記生 下村 未郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

利権企業ニ対スル蘇官憲ノ態度ニ関スル件

蘇連邦政府ニ於テハ行詰レル共產主義經濟ノ打開策トシテ凡有生産工業各種施設ニ対シ五ヶ年計画ナルモノヲ立案シ其ノ遂行ニ狂奔シ居ル折柄トテ自然利権ニ対スル態度強硬トナリ利権者ヲシテ今更ナカラ蘇連邦内ニ於ケル利権企業ノ難事ヲ痛嘆セシメ居ル現状ハ一般周知ノ事実ニシテ經營難ニ陥ルモノ蘇連邦政府ニ依リ契約ヲ廢棄セラルルモノ自ラ利権ヲ放棄スルモノ等相次イテ生シ利権企業ノ将来ハ益益暗澹タルモノナルヤニ見受ケラレ悲觀セラレ居ルトハ云ヘ我對蘇連邦利権中石油利権ノ如キハ國策上ヨリスルモ飽迄之ヲ保持セサルヘカラサル使命ヲ有スルモノナルカ之ニ對スル当地蘇官憲ノ態度ハ如何ト云フニ合法的ニ名ヲ藉リ各種施設ノ改善ヲ要求シ応接ニ暇無カラシメ居ルカ如キモ今ノ処特ニ庄迫的態度ニ出テ居ルトハ思ハレス来「オ」視察中ナル東大教授伊木博士ノ小官ニ語レル所ニ依ルモ石油利権企業ノ各種施設ニハ依然越後式ノ旧習ヲ多分ニ藏スルヲ以テ企業拡大ノ今日ニテハ企業自身至急改善ノ必要ヲ痛感シ居リ乍ラ採油ニ追ハレ遷延シ居ル次第ナルニ付技術者ノ眼ヲ以ツテスレハ当地蘇官憲ノ要求ハ無理ナリト認ムヘキ点無シト云フ右ニ依リ察スルモ目下石油企業ノ悩マサレツ

## 2 石油・石炭利権

57 昭和2年3月24日 幣原外務大臣より  
在ソ連邦田中大使他宛

北サガレン石炭企業組合より北樺太鉱業株式  
会社への権利等移転に関する通報について

付記 昭和二年一月二十日付四条商工次官より出淵外  
務次官宛

北サガレン石油企業組合から北樺太石油株式会  
社への権利義務譲渡に対するソ連政府の認可に  
ついて

欧一普通合第二五一号

昭和二年三月二十四日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

在莫斯科田中大使殿

在浦潮渡辺総領事殿

在亞港佐々木総領事殿

在哈府川角総領事殿

在「オハ」鈴木分館主任殿

北「サガレン」石炭企業組合ヨリ北樺太鉱業

ツアル各種施設ノ改善問題ハ過渡期ニ於ケル一時的現象ト見ラルヘク早晚企業自身ノ自覚ト相俟チ緩和セラルル可能性充分ナリト思考セラルル然ルニ莫斯科ニ於テ中里社長引続キ稲石代表對利権本部間ニ折衝中ナル各種懸案ハ容易ニ進捗ノ色無ク多少トモ会社側ノ希望ヲ入レタルモノハ取ルニ足ラサル小問題而已ニシテ石油企業將來ノ發展ニ關係ヲ有スルカ如キ問題ハ悉ク拒絶セラレ居ルヤノ事實ハ（本年五月三日付本機密第五五号送付在亞港總領事宛機密第二六号写参照）蘇連邦政府ノ對利権強硬策ヲ物語ルモノト云フヘク右ニ對シ当地鉱務監督官ハ最近蘇連邦政府ノ利権政策ニ變更アリ新利権ハ一切許与セサル方針ナリトテ利権契約ノ改約ヲ意味スルカ如キ利権企業代表者ノ要求ニハ容易ニ応セサルヘシト婉曲ニ語り居タルカ裏面ニハ当地蘇側「トレスト」企業ノ發展ニ伴レ我石油利権企業將來ノ進展ヲ喜ハサル事情伏在スルニ非サヤトモ思考セラル

右何等御参考迄報告申進ス

本信写送付先 在蘇連邦田中大使、在亞港佐々木總領事、  
在哈府山口總領事

会社へ権利義務移転ノ件

北「サガレン」石炭企業組合ノ北樺太石炭利権契約ニ基ク  
権利義務ヲ北樺太鉱業株式会社（資本金一千万円）へ移転  
方ニ付曩ニ当業者ヨリ勞農政府ニ願出タル処同政府ハ本年  
二月十五日付ヲ以テ右移転ヲ許可シタル趣ナリ御参考迄右  
申進ス

（付記）

第一一五九号

昭和二年一月二十日

商工次官男爵 四条 隆英（印）

外務次官 出淵 勝次殿

北樺太石油株式会社ノ推薦方ニ関スル件

本件ニ関シ客年八月二十三日付欧一機密第六三三四号ヲ以テ  
御照会ノ趣了承依テ直ニ北樺太石油株式会社ニ対シ田中大  
使ヨリノ來電ノ次第ヲ通達致置キタル処今般別紙写ノ通會  
社側ヨリ届出アリタルニ付委細右ニテ御了知ノ上可然御收  
計相成度此段及回答候也